

薩田ヶ谷横穴群



第2号墳～第6号墳

よみ さったがやおうけつぐん

指定 市指定史跡

基数 6基

所在地 御前崎市宮内

所有者 個人

指定日 昭和53年9月4日



第1号墳



第2号墳～第4号墳封鎖状況

解説

この横穴群は古墳時代の墓で、宮内字薩田ヶ谷の丘陵上部の南斜面に位置し、6基で構成されています。県立相良高校郷土研究部により昭和39年(1964)に第1号墳～第4号墳、昭和40年(1965)に第5・6号墳の発掘調査が実施されました。

その結果、箆川流域最大の横穴群であることが判明し、さらに旧浜岡町ではじめて学術的な発掘調査が行われた遺跡であることから、昭和53年(1978)に初の指定史跡に指定されました。

また、平成14年に浜岡町史編さん事業の一環として、清掃発掘調査と墓前域の発掘調査が実施され、改めて相互の位置関係を含めた地形測量が実施されました。

これらの調査により出土した副葬品や相互の位置関係などから、最初に単独で第1号墳が作られ、やや遅れて第5号墳がやはり単独で作られたと考えられます。その後相互に形態が似ている第2号墳～第4号墳が7世紀代に作られ、最後に小型横穴の第6号墳が最も東側に作られたと考えられます。なお、副葬品から8世紀初め頃までは追葬が行われていたことが判明しています。

薩田ヶ谷横穴群を代表とする市内に数多く存在する横穴は、古墳時代後期～奈良時代にかけての三～四世代を重ねた、古代の家族の動向を反映する貴重な文化財です。